

## 第7回小諸市廃棄物減量・再資源化等推進市民会議議事録

【日時】 令和4年9月21日（水）18時00分～19時30分  
⇒18時00分～19時40分

【場所】 小諸市役所3階 第1・第2会議室

【出席者】:細谷会長、木内副会長、原委員、村田委員、宇野委員、武者委員、佐藤委員、井出委員、下崎委員、清水委員、塩川委員、事務局

【欠席者】:依田委員

### 1 開 会

### 2 挨拶

【会長】

今日の議題はたくさんある。

皆で良い意見やアイデアを出していければ良いと思う。

### 3 会議事項

(1) 組成調査結果について（第1回・令和4年6月実施）

【事務局】

⇒組成調査結果について、説明し、委員の意見を求めた。

○概要

第1回組成調査を6月に実施した。

対象品目は、燃やすごみ、プラスチック製容器包装、埋立ごみの3種類になる。

対象地区を「商店街地区」、「市街住宅地」、「集合住宅団地」、「農村地域」の4地区を選定した。

4つの地区から各品目80袋（20袋×4地区）をサンプリングし、内容物を調査し分析した。

今回の市民会議では、課題となっている「燃やすごみ」に排出されたごみの構成比について発表する。

燃やすごみ（適正排出品）は73.4%、資源物に分類されるものは26.7%である。

資源物の内、生ごみが11%、古紙類が8.4%、プラスチック製容器包装が6%、その他が1.3%であった。

この数値から燃やすごみの中に約3割の異物が含まれていることが分かる。

昨年までは、組成調査を年に1回しか行っていなかったが、今年からは年に2回実施することになった。

第2回組成調査は、令和4年10月に実施する予定で、結果が分かり次第再度報告する。

※質疑応答、意見

【委員】

組成調査の対象地区を4地区に分けて実施しているが、4地区の傾向にどのような違いがあるのか。

【事務局】

地区ごとに住んでいる住人の年代割合が違うため、入っているごみに違いがある。

子ども用の紙オムツが多い、高齢者用の紙オムツが多いなどの違いがある。

【委員】

集団住宅団地は、若い世帯が多いと思うが、生ごみが多い等の傾向はあるのか。

【事務局】

今回調査した集合住宅団地は、生ごみが多く含まれている傾向があった。

【委員】

平成26年度と令和4年度を比べると、約10年で燃やすごみの構成比が10%以上増えている。

一方で、生ごみの構成比は増えてきているので、10年で生ごみを燃やすごみの混入量は増えていると考えられる。

また、平成29年度を境に燃やすごみとプラスチック容器包装の構成比が大きく変わっているので、平成29年度のプラスチック容器包装の分別区分が変わった影響だと推測される。

【事務局】

平成29年1月にプラスチック容器包装の分別区分が変わった。

この時に、汚れたプラスチックを燃やすごみに入れるようになり、燃やすごみの構成比が増え、プラスチック製容器包装の構成比が少なくなったのだと考えられる。

【委員】

プラスチック容器包装の構成比が、平成28年度が5.2%、平成29年度が11.1%、平成30年度が4.4%と増減しているが、これは、プラスチック容器包装の分別区分が変わった影響なのか。

**【事務局】**

プラスチック容器包装の分別区分変更の影響で、市民に混乱が起こったのだと考えられる。

汚れたプラスチック容器包装を燃やすごみに入れる人が多くなったため、平成28年(5.2%)から平成29年(11.1%)と増えた。

その後、広報等で「汚れたものは、水で洗い、プラスチック容器包装袋に入れること」を呼びかけ、平成30年(4.4%)に減少したと思料される。

**【委員】**

燃やすごみの構成比が上がってきていることは良いことなので、適正排出されるように更に対策を考えていかなければならないと思う。

**【委員】**

目標値をどこに持っていくのか考える必要がある。

古紙類の構成比は年々良くなってきているが、生ごみの構成比は以前として良くないので、生ごみに特化した取り組みが必要なのではないか。

生ごみを11%(令和4年度)から5%に下げる等の目標値を考えていかなければならないと考える。

**【事務局】**

事務局でもまずは、燃やすごみに混入する生ごみ削減に取り組んでいきたいと考えている。

**【委員】**

小諸市の分別は細かいが、日常的に行っているなので、他の市町村よりは分別がしっかりできている。

しかし、さらに分別を促していかなければならないというのは、レベルが高いことである。

市民の方に極端にストレスにならないようにどこまでできるかがポイントになる。

高齢者もいるので、ルールが難しすぎると分別ができない人が増える。

できるだけ分かりやすく、シンプルに、そして更にレベルが高いことをできるように考えていく必要がある。

**【委員】**

収集の立場から考えると、燃やすごみに異物が含まれていることにより、鳥やカラス、猫の問題が発生する。

燃やすごみの中に生ごみが含まれていると、動物がごみ袋を荒らしてしまう。

生ごみに対しては、対策が立てられるのではないか。

課題はたくさんあるが、全部同時にはできないので、一つに絞ってどこから手を付けるか考えていく必要がある。

【委員】

組成調査の対象地区を4地区に別けて実施しているが、4地区全体的に対して対策を行うのか、それとも地区ごとに対策を分けて実施していくのかも考える必要がある。

【事務局】

地区ごとに対策を講じられるのが一番良いが、難しい部分があるので、小諸市全体でまとめて対策を講じていきたい。

【委員】

組成調査を行う対象区の区長に対して、事前に連絡はしているのか。

区長に連絡していなければ、ごみを見られることに嫌がる人がいて、トラブル等につながる可能性があるのでは、気を付けなければならないと考える。

【事務局】

市民の方に知らせる時は、「市街住宅地」等の地区の区分は知らせるが、地区名は示していない。

【委員】

4つの地区ごとに別れているので、全体の組成調査結果だけでなく、地区ごとの結果も示してもらえれば、各地区ごとの対策を立てられるかもしれない。

【事務局】

第2回の組成調査結果が終わったら、4つの地区ごとの結果を示せるようにする。

(2) 生ごみキャンペーンについて

【事務局】

⇒事務局が考える「生ごみキャンペーン案」について説明し、委員の意見を求めた。

○概要

組成調査の結果から集積所に出される燃やすごみ指定袋の中に生ごみ等の異物が3割含まれている現状がある。

また、小諸市の人口は減少しているが、世帯数が増えているため、若者世帯が増えていると考えられる。

生ごみを分別すれば、ごみを燃やす燃料等の経費削減や持続可能な社会の実現を目指すことができる。

しかし、全国的には、生ごみは燃やすごみとして処理するのが一般的なので、知らず

に生ごみを燃やすごみ指定袋に入れているのではないかと思料される。

生ごみ指定袋(小)のサイズでも大きいという意見があるため、容量が少ない生ごみ指定袋(極小)の作成を検討している。

燃やすごみに混入される生ごみを減らす対策として、「①新しく作成する予定の生ごみ指定袋(極小)を若者世帯に無料配布し、生ごみ指定袋を使ってもらうこと」、「②生ごみ指定袋を購入するとエコポイントが付いたり、小諸市内の店舗で代金が割引になるシステムの構築」等を考えている。

※質疑応答、意見

【委員】

キャンペーンで無料配布する生ごみ指定袋の値段は、いくらで考えているか。

【事務局】

現在、業者に見積を取っているのでまだ確定していない。

分かり次第、お知らせする。

【委員】

燃やすごみ指定袋に混入される生ごみを減らすのではなく、家庭から排出される生ごみ自体を減らすことが大切であるとする。

家庭から排出される生ごみ自体を減らすことが一番の目的なので、市民に対するPRの仕方をもっと考えていくべきである。

【委員】

燃やすごみ指定袋に混入される生ごみを減らすのか、生ごみ自体を減らすのかでは、対応が変わってくると思う。

生ごみ自体を減らすのが目的であれば、家庭用のコンポストや生ごみ処理機の補助金を出す等の案がある。

生ごみ指定袋を無料配布するのであれば、予算をかけてまでやるべきことなのかをしっかりと考えなければならないと考える。

【委員】

生ごみ指定袋(極小)の大きさだと、生ごみを生ごみ指定袋に入れて、そのまま燃やすごみ指定袋に入れられる可能性があるのではないかと考える。

若者世帯に生ごみ指定袋を使ってもらえたとしても、そのまま燃やすごみ指定袋の中に入れられたら意味がない。

しっかりと生ごみの回収日に生ごみ指定袋で集積所に出してもらえるような対策も考えるべきである。

【委員】

極小の生ごみ指定袋を作るという案は良いと思う。

一人世帯で生ごみ指定袋(小)は、大きすぎる気がする。

一人世帯や若者世帯にアプローチするには、実際に生ごみ指定袋に触れてもらい、使ってもらおうというのは大切である。

生ごみを分別してもらい良いきっかけになるのではないかと考える。

生ごみ指定袋を無料配布することによって、効果があるかは、やってみないと分からない。

しかし、燃やすごみ指定袋の中に混入する生ごみが減少すれば、燃料費の削減につながるのでは、実施してみる価値はあるのではないかと考える。

【委員】

小さい生ごみ指定袋でこまめにごみ出しをするのが大変だと考える人がいるのではないかと考える。

生ごみの水気を切り、冷凍庫に入れて保管し、1・2週間分をまとめて大きい生ごみ指定袋に入れてごみ出しをしている人を知っている。

生ごみ指定袋(極小)が必要な人もいれば、必要ない人もいると思うので、承知して欲しい。

【委員】

家庭からの生ごみの排出量を減らすことが大切である。

上田市では、「生ごみ出しません袋」という、生ごみ以外の燃やすごみ専用袋を年間30枚無料配布している。

生ごみを排出しないと宣言した人に無料でごみ袋を配布することで、市民に生ごみ削減の意識付けを行っているのでは、一つの案として検討して欲しい。

【委員】

生ごみ指定袋に限らず、燃やすごみ指定袋、プラスチック製容器包装袋にも帯は付いている。

小諸市内の店舗を支援、小諸市の活性化をする意味で、帯に広告やポイント等を付けるのは、良い案ではないかと思う。

【委員】

小諸商店会連合会の理事をしているので、ごみ指定袋の帯にポイントを付けることについて、理事会で話をすることができる。

先ほど事務局から、「生ごみを焼却処分すると、焼却炉の温度が低温になり、炉の寿命が短くなる」という話を聞いた。

私は、「焼却炉の炉内が高温になると炉が痛む」という認識であった。

焼却炉の温度が下がっても、炉の寿命が短くなるかについて、データ等があれば教えて欲しい。

【事務局】

焼却炉の温度が一定に保たれるのが一番良く、一定の温度でゴミを焼却できず、炉の温度に波が起こると負荷がかかるという認識であった。

根拠等については、確認してお伝えする。

【委員】

ゴミの減量対策を考え、早急に実施することが大切ではないか。

そして、実施したことを分析し、精査するのがこの会議の役割だと思う。

### (3) ゴミ・資源収集カレンダーの全戸配布方法について

【事務局】

⇒事務局が考える「ゴミ・資源収集カレンダーの全戸配布方法」について説明し、委員の意見を求めた。

○概要

ゴミ・資源収集カレンダーは、毎年作成し、2月下旬に広報誌等の配布物と一緒に各区を通して、市民に配布している。

2月下旬以降にカレンダーが欲しい場合は、市役所関係施設やツルヤみかげ店、カインズ小諸店、小諸図書館で受け取ることができる。

しかし、2月下旬の配布は、区未加入者には配布できていないという課題がある。

ゴミ・資源収集カレンダーを全戸配布する方法として、「①郵便局とポストイン契約をする」、「②株式会社ゼンリンに配布依頼をする」、「③各区に区未加入者にも配布するように依頼する」を考えている。

現在4地区に別けて作成しているゴミ・資源収集カレンダーを一冊に統一するという案も検討している。

※質疑応答、意見

【委員】

どれくらい区未加入者がいるのか、どういう人たちに配布できていないのかという現状を調べ、そのターゲットに対してどういう対策がとれるかを考える必要があると思う。

【委員】

小諸市への転入者にごみ・資源収集カレンダーを配布しているのか。

【事務局】

転入手続き時に市民課で配布している。

【委員】

転入者が、市役所で転入手続きをしていない場合があると思う。

アパートへの対策としては、不動産会社に話をして、不動産会社からアパートの住人に配布してもらうという方法があると思う。

【委員】

アパートの住人にカレンダーを配れていないと思うので、アパートの管理会社・大家さんに話をするのは大切だと考える。

【委員】

現実的な方法は、「各区から区未加入者にも配布してもらう」だと思う。

区長会等で行政から区長に協力を依頼するしかないと考える。

近頃、地域のつながりが希薄になってきているので、つながりをつくる良い機会になるのではないか。

ごみ・資源収集カレンダーだけでなく、広報こもろ等も全市民に届いていない状況がある。

市の情報が市民に入らないのは問題なので、改善が必要である。

【事務局】

事務局としても各区にお願いするのが一番合理的だと考えている。

区未加入者を区加入へ勧誘する機会にもなり、区未加入者に分別指導ができれば、集積所の分別改善につながる等のメリットが大きいと思う。

9月28日に区長会役員会があるので、依頼をする予定である。

【委員】

小諸の企業で働いている外国人がアパートに多く住んでいる。

企業に協力してもらい、外国人に対して外国語で分別指導ができるようにしていかなければならないと思う。

【事務局】

外国語版のごみ・資源収集カレンダーを作成しているので、企業の協力を得て、分別指導を行っていきたい。

また、企業によっては、「派遣会社から派遣されている外国人のため、対応ができない」等と回答する企業もあり、協力が得られない場合があるので、承知いただきたい。

【委員】

ツルヤみかげ店、カインズ小諸店に設置したごみ・資源収集カレンダーは、どれくらいなくなっているのか。

**【事務局】**

ツルヤみかげ店は、第3地区に所在するスーパーなので、第3地区のカレンダーが多くなっている状況である。

第3地区のカレンダーが一カ月で約20冊なくなり、4月にカレンダーを設置してから半年間で100冊くらい補充している。

他の地区のカレンダーは、2～3冊減っている程度である。

カインズ小諸店は、各地区のカレンダーが半年間でそれぞれ2～3冊減っている程度である。

ツルヤみかげ店とカインズ小諸店を比べると、ツルヤみかげ店のカレンダーを手にする市民が多い傾向がある。

**【委員】**

令和4年7月から小諸図書館にもカレンダーを設置してもらい、図書館利用者でカレンダーを持っていない方にも配布できるようになった。

カレンダーを配布できる場所が多いことは便利だと思うので、今後も継続して設置した方が良いと考える。

**【委員】**

ごみの収集で市内を回っていると、4地区すべてのカレンダーが欲しいと言われることがある。

スーパーやコンビニ等のごみ指定袋を販売している店舗に協力してもらい、「ごみ指定袋の購入者にカレンダーが必要か確認してもらい、必要な人に配布してもらう」というのも一つの案だと思う。

カレンダーを必要としている人は多いと思うので、様々な配布方法を検討した方が良いと考える。

**【事務局】**

店舗が協力してくれるかという問題があるが、一つの案として参考にしたい。

**【委員】**

全地区のカレンダーが欲しいと言う人は、自分のタイミングでごみを出したい人なのではないか。

例えば、「生ごみを出したいけど、自分の地区は来週まで生ごみの回収がない。どうしても今日生ごみを出したいので、生ごみを回収する地区を調べて、その地区の集積場に持っていく」ということである。

全地区のカレンダーがあれば、どの地区が何のごみ回収日か把握することができる。

このような方法を取っている人がいるのではないかと思う。

【事務局】

ごみは、自分の区の集積所に出すように、市民に周知していきたい。

また、ごみの収集作業中にカレンダーが欲しいという市民がいた場合は、小諸市のホームページでカレンダーのデータが見れるので、ホームページを確認するように誘導して欲しい。

【委員】

カレンダーを1冊に統一するという事務局案があったが、市民が長年慣れている4地区に別れているカレンダーを1冊に統一すると、混乱が起きると思うので慎重に検討して欲しい。

(4) 指定ごみ袋（レジ袋タイプ）について

【事務局】

⇒事務局が考える「指定ごみ袋(レジ袋タイプ)」について説明し、委員の意見を求めた。

○概要

小諸市の指定ごみ袋は、スーパーやコンビニ等で10枚や25枚ごと束で販売されている。

また、コンビニ等で商品を購入した際に有料でレジ袋を購入することができる。

単身世帯だと束で販売されている指定ごみ袋の容量が大きすぎる、コンビニ等で購入した有料レジ袋がプラスチックごみになってしまう等の課題がある。

今回作製を検討しているのは、燃やすごみ指定袋とプラスチック製容器包装指定袋のレジ袋タイプである。

指定ごみ袋(レジ袋タイプ)は、「①コンビニ等で購入し、商品の持ち運びにも使え、指定ごみ袋として集積所に出す」ことができる。

また、「②1枚ずつ販売することができるため、容量が少なく、単身世帯が使いやすい」、「③ごみとして捨てられるレジ袋を削減することができる」等のメリットが多いため、作製を検討している。

※質疑応答、意見

【委員】

レジ袋タイプの指定ごみ袋はやめた方が良いと思う。

レジ袋のサイズだと、ちょうど良い大きさなので、分別をせず、何でも詰め込まれる可能性がある。

また、ごみの減量化と再資源化を話し合うことがこの会議の目的であるので、数値目標を作って、そのために何をするのか話し合いをするべきであると考えている。

【委員】

レジ袋タイプの指定ごみ袋の案は良いのではないかなと思う。

実際にレジ袋タイプの指定ごみ袋を販売している市町村が全国にあるので、その市町村に問い合わせ、効果や課題について聞いてみるのはどうか。

レジ袋を販売するのではなく、指定ごみ袋を販売するという感覚で、いろんな観点から検討する必要があると考えている。

【委員】

レジ袋タイプの指定ごみ袋の使い勝手について、この会議のメンバーや市役所の職員で試しに使ってみるのはどうか。

いきなり市民を対象に実施するのは大変なので、サンプルを少量作製し、身内で実験してみるのが良い気がする。

【事務局】

業者に依頼し、少量作ってもらうことは可能だと思うので、検討したい。

#### 4 連絡事項

(1) 指定ごみ袋の値上げについて

【事務局】

小諸新聞の記事にもなったが、現在物価が上昇しているため、令和5年度(令和5年4月1日)から指定ごみ袋を値上げすることになると思料される。

令和4年度(令和5年3月31日)までは、現在と同じ値段で販売する予定なので、承知いただきたい。

(2) ジット株式会社によるインクカートリッジの回収について

【事務局】

現在、使用済みインクカートリッジとトナーカートリッジを市役所及び文化センターの正面玄関で回収している。

小諸市では、今まで一部のプリンターメーカーによる「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」に参加して、リサイクルを行っていたが、参加4メーカー(エプソン、キャノン、

ブラザー、ヒューレット・パッカー)の純正品しか回収できない状況であった。

今回、ジット株式会社と協力して、4メーカー以外の純正・非純正品のインクカートリッジに加えてトナーカートリッジも回収できるようになったので、承知いただきたい。

### (3) コンサルタント委託、アンケートの実施について

#### 【事務局】

今後、コンサルタント委託を行い、市民に対してアンケートを実施する予定である。

アンケートは、小諸市民から無作為に抽出し、2000人を対象に行う。

アンケートを郵送し、数十問の設問に回答してもらい、返信用封筒で返送してもらうという方法で行う。

アンケートには、ごみの分別方法を把握しているか、3Rへの意識があるか等の設問を設ける予定である。

令和4年10月に業者を選定し、コンサル委託を行い、令和5年2月に市民アンケートを実施する計画をしている。

コンサル委託先は、専門的な見地から意見をもらう位置づけであり、市民会議は、市民の代表として市民の声を行政に届ける最も重要な諮問機関になる。

今後進捗状況があれば、その都度お知らせする。

### (4) その他（次回日程等）

公民館まつり 10月8日（土）～10月9日（日）

第8回市民会議 11月29日（火）18時～

## 5 閉 会